

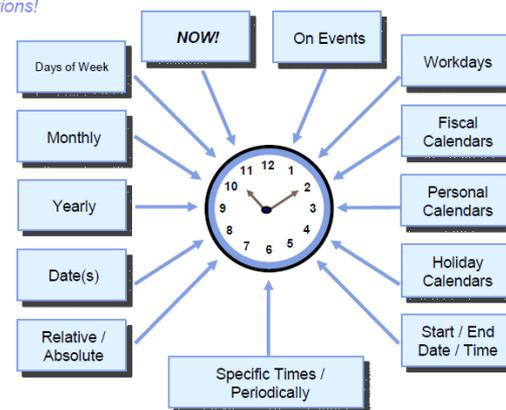
IBM i 2025

IBM i コンテンツ (2025年1月版)

IBM Navigator for iを使った拡張ジョブ・スケジューラーの 活用法

日本アイ・ビー・エム株式会社
テクノロジー事業本部
IBM Powerテクニカルセールス

Many options!



IBM Navigator for iを使った拡張ジョブスケジューラーの活用法

拡張ジョブスケジューラーの基本的な機能については、以前（2023/12）解説しました。（下記のリンク参照）

https://www.jbcc.co.jp/products/files/ibmpowercolumn_202312.pdf

その時点では、まだWeb化（IBM Navigator for iでの機能提供）が完了していなかった為、5250画面でのコマンド入力による使用方法をご紹介しました。この度、IBM Navigator for iでの全機能の実装が完了しましたので、その活用法をご紹介いたします。

目次

1. 拡張ジョブ・スケジューラーとは
2. Navigator for iで拡張ジョブスケジューラーを使ってみよう（基本編）
3. Navigator for iで拡張ジョブスケジューラーを使ってみよう（ジョブネット編）
4. 補足情報

1. 拡張ジョブ・スケジューラーとは

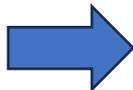
(1) 拡張ジョブ・スケジューラー (IBM Advanced Job Scheduler for i)

- ✓ 2022年6月より無償となった 5770-JS1 として提供
- ✓ OSの標準スケジューラーよりも、多くのカレンダー機能を提供
- ✓ 1日24時間・週7日の無人ジョブ処理を可能にする
強力なスケジューラー
- ✓ ジョブネット (実行順序を指定したジョブの集まり) を登録し、
完了履歴を表示したり、ジョブの進行状況の通知機能を提供
- ✓ 全ての機能を、IBM Navigator for i のGUIで操作可能

1. 拡張ジョブ・スケジューラーとは (再認識)

(2) 拡張ジョブ・スケジューラーで実現できること

- 日常の基幹業務のシステム運用の大部分の自動化が可能
- 運用管理の生産性の向上により、運用要員の負荷軽減になる



拡張ジョブ・スケジューラー

- 5250画面を使用せず
GUIで業務毎のカレンダーの作成



- ジョブネットの作成
(複雑なジョブ間の連携処理が可能)



解説：

- ・ 設定した時間でプログラムを起動するような単純な作業は「IBM i OSの標準スケジューラー」でも可能です。高度なもの（営業日や稼働日などの複数のカレンダーを持ち、複雑なジョブ間の先行関係や例外処理を定義できるものなど）は、これまでは、独自のカレンダーデータベースを作成し、複雑なCLプログラムのコーディングが必要でした。これが、「拡張ジョブ・スケジューラー」なら簡単にできます。
- ・ 拡張ジョブ・スケジューラーによって、日常の基幹業務のシステム運用の大部分の自動化が可能になります。運用管理の生産性の向上により、要員不足の解消につながります
- ・ 拡張ジョブ・スケジューラーをNavigator for iで利用するためには、最新のPTFの適用が必要になります。詳細は下記のURLを参照してください。
<https://www.ibm.com/support/pages/advanced-job-scheduler-ajs-plugin-ibm-navigator-i>

2. 拡張ジョブスケジューラーを使ってみよう（基本編）

(1) 基本的な設定方法のご紹介

✓ ジョブのスケジュール設定例

(例) 日次売上レポート処理を、月曜日から金曜日まで毎日22:00に実行したい

ジョブ名	: SALESRPT
スケジュールコード	: *DAILY (日次)
スケジュール時刻	: 22:00
スケジュール曜日	: *MON *TUE *WED *THU *FRI (月曜日から金曜日)
記述	: 日次売り上げレポート処理
コマンド (ジョブ)	: CALL BPL020 (得意先別受注一覧表の作成) CALL BPL030 (地区別受注一覧表の作成)

上記プログラムは、ライブラリー (SAWADALIB) に存在

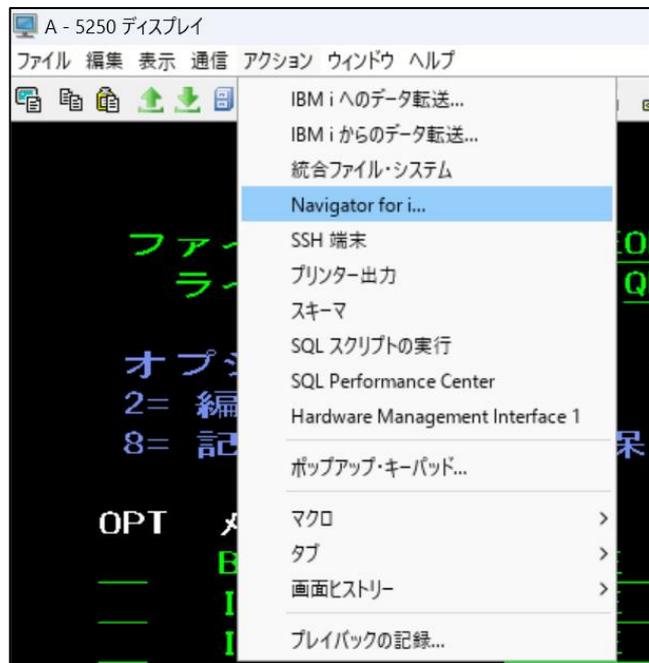
➤ 設定手順 (次ページ以降で詳細手順解説)

2. 拡張ジョブスケジューラーを使ってみよう（基本編）

(2) 設定手順

① Navigator for iを起動

ACSの「アクション」から「Navigator for i」を選択



② 下記画面で、ユーザー名とパスワードを入力します。

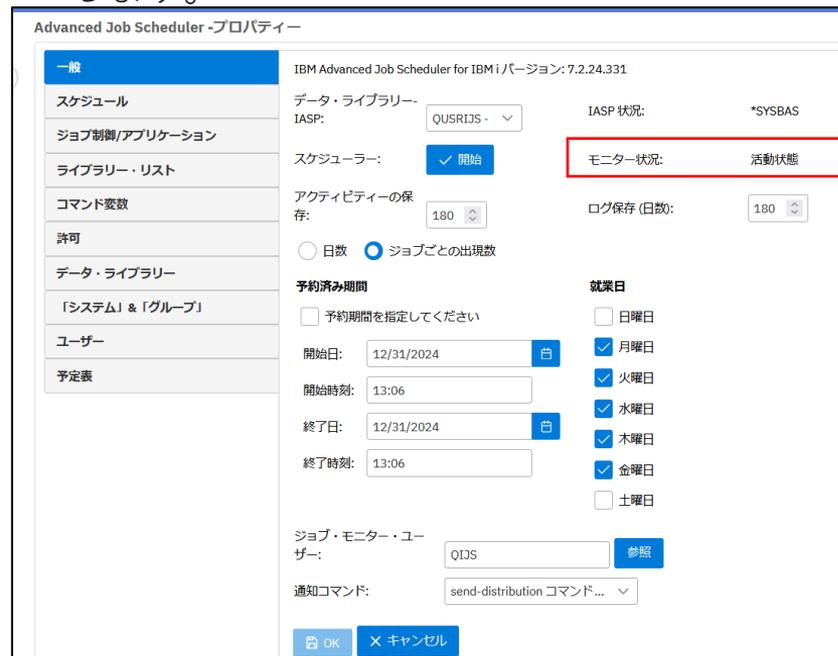
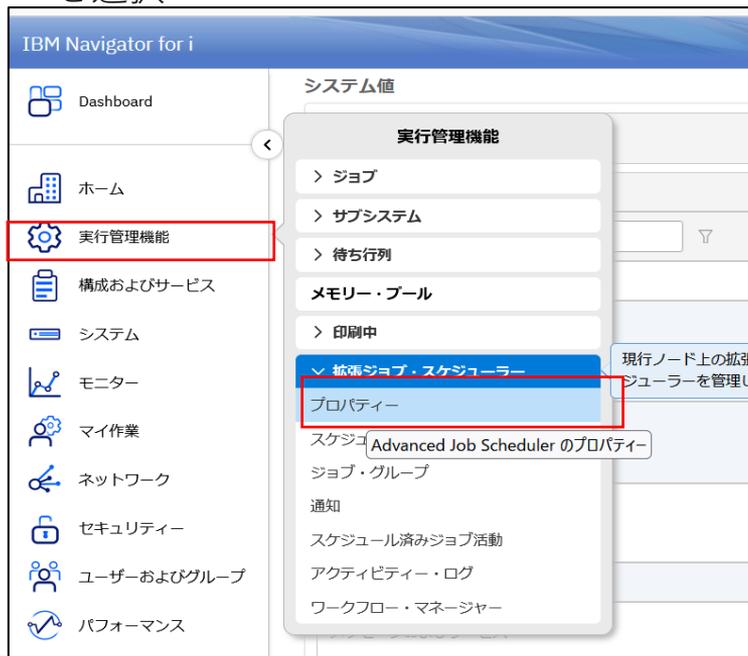


2. 拡張ジョブスケジューラーを使ってみよう（基本編）

(2) 設定手順

- ③メニューの「実行管理」から「拡張ジョブ・スケジューラー」の「プロパティー」を選択

- ④下記画面（一般）で、スケジューラーのモニター状況が「活動状態」であることを確認します。



解説：

「プロパティ」ページには、拡張ジョブスケジューラーの基本設定を定義する場所が用意されています。また、このページでは、事前定義スケジュール、スケジュールリング・カレンダー、休日カレンダー、会計カレンダー、データ・ライブラリー、システムとグループ、およびユーザーを処理することもできます。

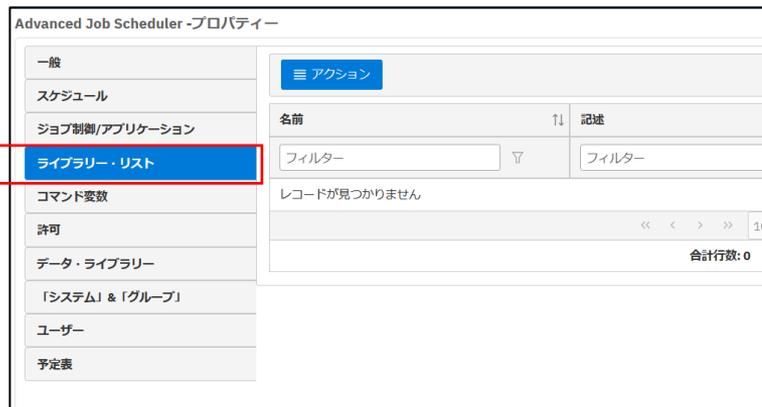
- 一般： 基本的な設定項目を定義する場所が用意されています。
- スケジュール： 事前定義されたスケジュールを処理する場所が用意されています。
- ジョブ制御/アプリケーション： ジョブ制御/アプリケーションを操作する場所が用意されています。
- ライブラリー・リスト： ライブラリー・リストを操作する場所が表示されます。
- コマンド変数： コマンド変数を処理する場所が表示されます。
- 許可： 拡張ジョブスケジューラー内の機能に対する権限を追加または変更することができます。
- データ・ライブラリー： データ・ライブラリー（スケジュールのデータ）を処理する場所が用意されています。
- システムとグループ
システムとグループページでは、リモートシステム上のスケジュールされたジョブの通信と実行に使用されるリモートシステムへのIPアドレスの追加、削除、変更を行うことができます。
- ユーザー： ユーザーと作業するための場所が表示されます。
- 予定表： スケジュールリング・カレンダーと休日カレンダーを処理する場所が用意されています。
詳細は、下記URLを参照

<https://www.ibm.com/docs/ja/i/7.5?topic=web-advanced-job-scheduler-properties>

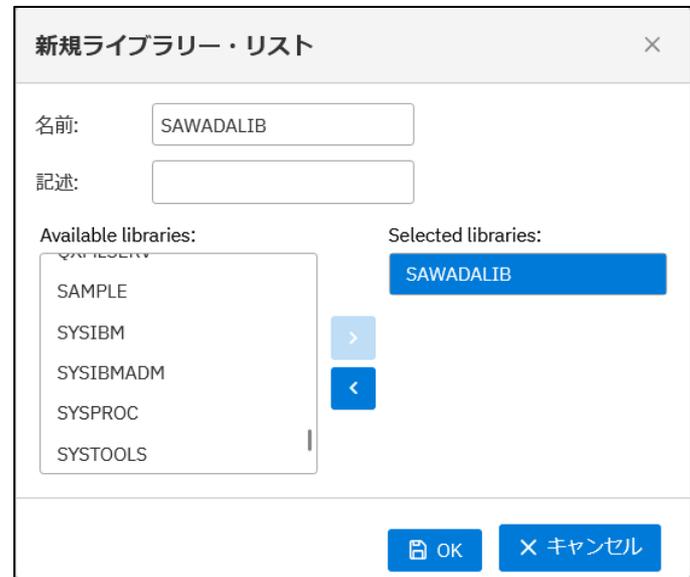
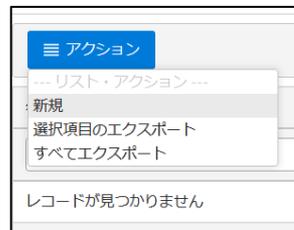
2. 拡張ジョブスケジューラーを使ってみよう（基本編）

(2) 設定手順

- ⑤メニューの「ライブラリー・リスト」を選択



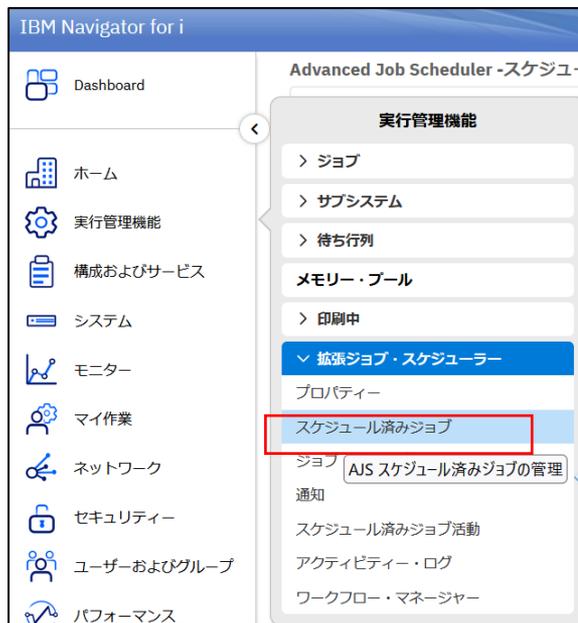
- ⑥「アクション」->「新規」で
下記画面で、適当な名前を付けて、
必要なライブラリーを選択して
[OK] を選択します。



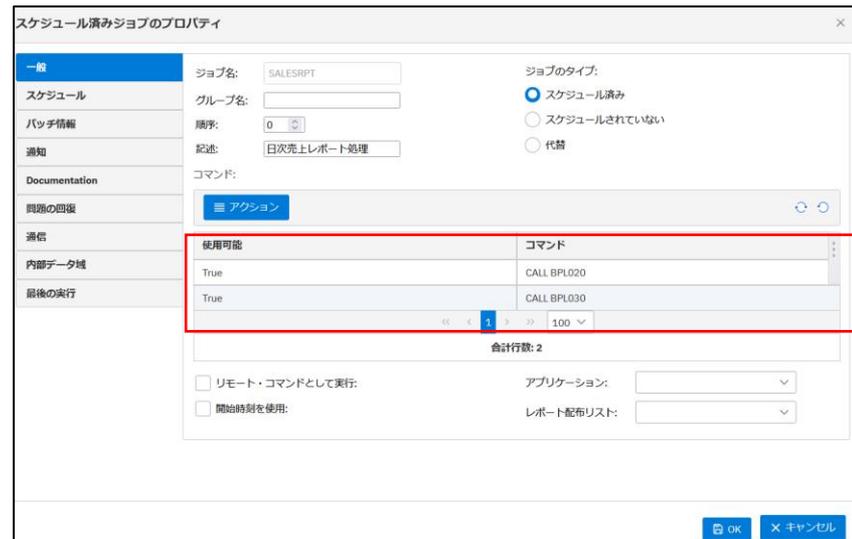
2. 拡張ジョブスケジューラーを使ってみよう（基本編）

(2) 設定手順

⑦ 拡張ジョブスケジューラーのメニューの「スケジュール済みジョブ」を選択



⑧ 「アクション」->「新規」で下記画面で、ジョブ名に、[SALESRPT]を入力し、コマンドの「アクション」->「新規」でBPL020とBPL030をCALLを設定します。その後、「スケジュール」のタブを選択します。



解説：

- ・「スケジュール済みジョブ」には、すべてのスケジュール済みジョブのリストの表示、新規スケジュール済みジョブの作成、ジョブのスケジューリングに関連するプロパティの定義、およびすべてのスケジュール済みジョブのリセットを行うオプションがあります。スケジュールされたジョブをリストする場合、ジョブ関連のプロセスおよびジョブ管理機能は、スケジュールされたジョブに対して実行できます。
- ・「ジョブの作成およびスケジュール」についての詳細は、下記URLを参照
<https://www.ibm.com/docs/ja/i/7.5?topic=scheduler-creating-scheduling-job>

2. 拡張ジョブスケジューラーを使ってみよう（基本編）

(2) 設定手順

- ⑨ 「新規スケジュール済みのジョブ」でスケジュールを設定します。
- ・ 実行回数の特定の時刻に、22:00を入力し、追加をクリックします。(10:00 PMになります)
 - ・ 実行する日は、毎週で、月から金を選択します。

- ⑩ 「バッチ情報」を選択します。
ライブラリー・リストで「SAWADALIB」を選択します。

解説：

- スケジュールされるジョブのスケジュール指定方法は二通りあります。事前にスケジュール定義をし、それを選択してジョブに関連付けるか、または、ジョブ内でスケジュールを定義します。ジョブ内のスケジュールを定義する場合は、以下のステップを続行してください。
- スケジュールする特定の日付を選択するには、「実行する日付」ボックスの「頻度」パラメーターの下の「選択した日に実行」を選択します。特定の日付を追加する場合、カレンダーに組み込みたい日付をクリックしてください。日付は 30 個まで選択できます。選択された日付はすべて、「詳細」ボックスに要約されます。カレンダーの日付範囲は、カレンダーの下に自動的に入力されます。
- スケジュールする曜日を選択するには、「実行する日付」ボックスの「頻度」パラメーターの下の「毎週」を選択します。曜日の選択には二通りの方法があります。目的の曜日に該当する 1 日を選択して、その特定の曜日を選択することができます。例えば、その月のすべての月曜日を組み込む場合、表示されているいずれかの月曜日を選択すると、すべての月曜日が強調表示され、カレンダーに追加されます。または、右横のボックスで、カレンダーに追加したい曜日を選択してください。カレンダーからいずれかの日付を削除する必要がある場合は、日付をクリアして削除してください
- 毎月特定の日をスケジュールに入れるように選択するには、「実行する日付」ボックスの「頻度」パラメーターの下の「月次」を選択します。毎月のカレンダーに組み込みたい日付を選択して、強調表示させます。それらの日は右側のボックスに要約されます
- 毎年特定の日付をスケジュールに入れるように選択するには、「実行する日付」ボックスの「頻度」パラメーターの下の「毎年」を選択します。カレンダーに組み込みたい特定の日付を選択して、強調表示させます。この日付が、すべての年に引き継がれます。最大 30 個まで日付を追加することができます。

2. 拡張ジョブスケジューラーを使ってみよう（基本編）

(2) 設定手順

⑪ 「OK」を選択します。

これで、ジョブのスケジュール設定は完了です。

Advanced Job Scheduler - スケジュール済みジョブ

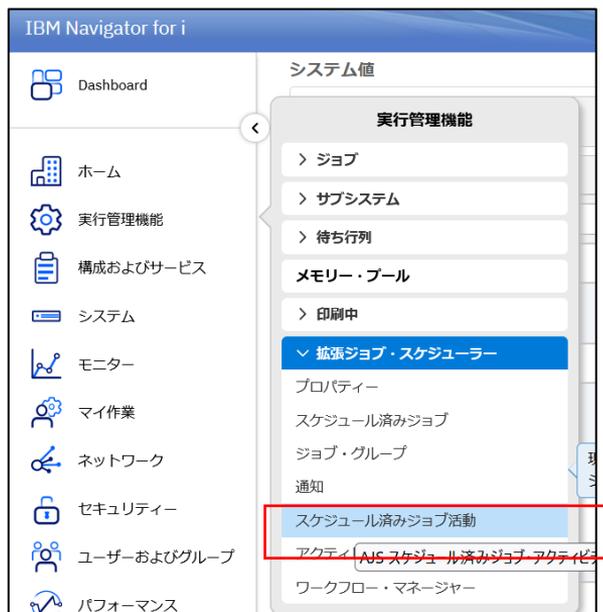
ジョブ名	ステータス	次の実行	スケジュール	グループ	順序	記述
SALESRPT	実行準備完了	Jan 1, 2025 @ 22:00	毎週		00	日次売上レポート処理

合計行数: 1

2. 拡張ジョブスケジューラーを使ってみよう（基本編）

(3) スケジュールされたジョブの完了確認

- ① 拡張ジョブスケジューラーのメニューから「スケジュール済みジョブ活動」を選択します。
- ② 22:00に、登録したジョブ（SALESRPT）が正常に完了（成功）したことを確認できました。



Advanced Job Scheduler - スケジュールされたジョブ・アクティビティ

ジョブ	完了状況	開始済み	グループ	順序	カレンダーのスケジュールリング	記述
フィル	フィル	フィル	フィル	フィル	フィル	フィル
SALESRPT	成功	Jan 1, 2025 @ 22:00		00		
TESTCL	成功	Jan 1, 2025 @ 18:10		00		
TESTCLX	成功	Jan 1, 2025 @ 18:00		00		

2. 拡張ジョブスケジューラーを使ってみよう（基本編）

(3) スケジュールされたジョブの完了確認

- ③スケジュール済みジョブ活動で、
[SALESPRT]で右クリックします。
項目アクションで「アクティビティ・ログ」
を選択します。

Advanced Job Scheduler - スケジュールされたジョブ・アクティビティ

ジョブ	完了状況	開始済み	グループ
SALESPRT	...	Jan 1, 2025 @ 22:00	
TESTCL	HOLD	Jan 1, 2025 @ 18:10	
TESTCLX	リリース	Jan 1, 2025 @ 18:00	
TESTCLX	レポートの配布	Jan 1, 2025 @ 17:30	
TESTCL	プロパティ	Jan 1, 2025 @ 17:00	

右クリックメニュー:

- 項目アクション
- アクティビティ・ログ
- ジョブ・ログ

- ④登録したジョブ（SALESPRT）が正常に完了したことの
詳細なジョブ状況を確認できました。

Advanced Job Scheduler - アクティビティ - ログ

送信時刻	メッセージID	メッセージ	リモート・ローケーション名	優先度	ユーザー	ジョブ名	グループ	順序
2025/1/1 22:00:01	I356000	ジョブSALESPRTグループ「NONE」順序「N」のジョブ119820/QJ25SALESPRTが投入されました。	POWERSC	00	QJ25	SALESPRT		00
2025/1/1 22:00:01	I356001	ジョブSALESPRTグループ「NONE」順序「N」のジョブ119820/QJ25SALESPRTが開始されました。	POWERSC	00	QJ25	SALESPRT		00
2025/1/1 22:00:01	I356010	ジョブSALESPRTグループ「NONE」順序「N」のコマンド順序0010を実行中です。	POWERSC	10	QJ25	SALESPRT		00
2025/1/1 22:00:01	I356011	ジョブSALESPRTグループ「NONE」順序「N」のコマンド順序0010は正常に終了しました。	POWERSC	10	QJ25	SALESPRT		00

作成された帳票（スプールファイル）も確認できました。

->これはOUTOで確認です。

プリンター出力 - qGPL/qPRINT

Advanced Job Scheduler - 出力待ち行列 > プリンター出力

ファイル名	作成日	ユーザー指定データ	ユーザー	状況	出力待ち行列
BPL020P	2025-01-01 22:00:01.164743	BPL020	QJ25	READY	QPRINT
BPL030P	2025-01-01 22:00:01.192731	BPL030	QJ25	READY	QPRINT

3. 拡張ジョブスケジューラーを使ってみよう（ジョブネット編）

(1) ジョブネット（ジョブの依存関係）登録が可能です。

✓依存関係とは：ジョブ同士の間で、先行ジョブ又は、後続ジョブの関係を表すもの

- ・先行ジョブ：後続のジョブが実行される前に実行されるジョブ
- ・後続ジョブ：全ての先行ジョブの処理が済んでから実行されるジョブ

✓先行ジョブと後続ジョブの関係は N 対 N もOK

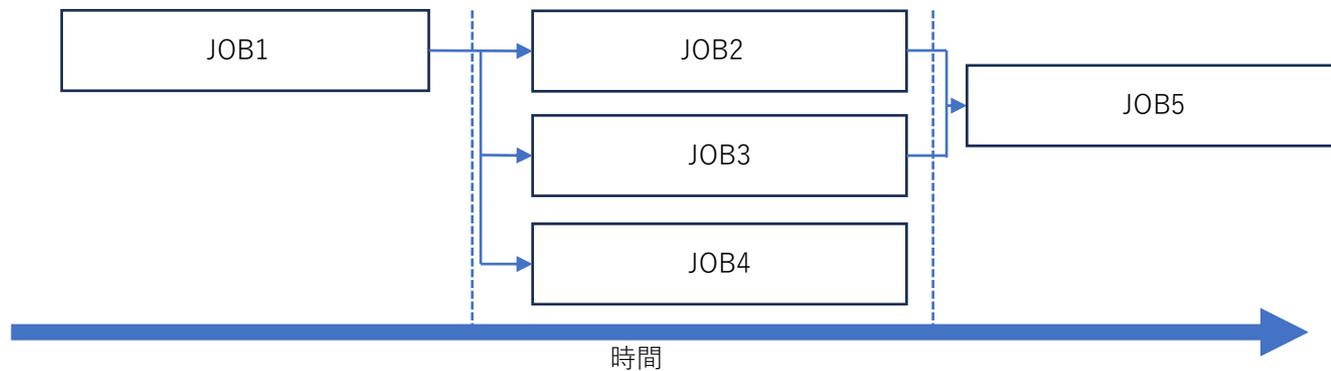
✓先行ジョブが異常終了した場合には、後続ジョブは、実行しないように設定することも可能

・ここでは、下図のジョブネットを登録してみましよう。

(例) JOB1の終了後、JOB2, 3, 4が実行され、JOB2, 3の完了後JOB5が実行する

(JOB2, 3, 4にとって、JOB1が先行ジョブ、JOB5にとって、JOB2, 3が先行ジョブになる)

をIBM Navigator for iで登録してみましよう



解説：

- ・拡張ジョブスケジューラーを使用すると、ご使用の環境でのジョブの処理方法を反映する依存関係をセットアップできます。依存関係によって、ジョブまたはジョブ・グループがいつ実行されるかを判別できます。ジョブを実行する前にすべての依存関係を満たさなければならないように選択することも、ジョブを実行する前に少なくとも1つの依存関係を満たす必要があることを選択できます。
- ・ジョブ依存関係とは、ジョブどうしの中で先行ジョブまたは後続ジョブの関係を表すものです。先行ジョブとは、後続のジョブが実行する前に実行されるジョブのことです。後続ジョブとは、すべての先行ジョブが処理された後に実行されるジョブのことです。1つの先行ジョブに対して複数の後続ジョブがある場合があれば、1つの後続ジョブに対して複数の先行ジョブがある場合もあります。さらに、従属ジョブが実行されるようにスケジュールされていない日にその先行ジョブおよび後続ジョブが実行された場合に、従属ジョブがスキップされるように指定することもできます。

3. 拡張ジョブスケジューラーを使ってみよう（ジョブネット編）

(2) 各ジョブの新規登録

①まずは、JOB1から5の各ジョブの新規登録を行います。新規スケジュール済みジョブで登録します。（JOB1の例です。同様にJOB2-5も登録してください）

②スケジュールタブで、毎週（月から金）の15:00に、実行します。

新規スケジュール済みジョブ

一般

ジョブ名: JOB1

ジョブのタイプ:

スケジュール済み

スケジュールされていない

代替

スケジュール

グループ名:

番号: 0

記述: 実行ジョブ1

Documentation

コマンド:

アクション

問題の回復

通信

内部データ域

使用可能

コマンド

True CALL JOB1

合計行数: 1

リモート・コマンドとして実行:

アプリケーション:

開始時刻を使用:

レポート配布リスト:

OK キャンセル

スケジュール済みジョブのプロパティ

一般

スケジュール

バッチ情報

通知

Documentation

問題の回復

通信

内部データ域

最後の実行

スケジュール名: Select

実行回数

特定の時刻

03:00 PM

Total times: 1

定期的

頻度: 30

開始時刻: 00:00

終了時刻: 23:59

頻度: 詳細:

選択した日付

毎週

月次

営業日として選択

日曜日

月曜日

火曜日

水曜日

木曜日

スキップ・カウント: 0

追加のカレンダー

実行する日付

Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat
29	30	31	1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	1
2	3	4	5	6	7	8

2025 / 01 / 01 -- 2039 / 12 / 29

3. 拡張ジョブスケジューラーを使ってみよう（ジョブネット編）

(2) 各ジョブの新規登録

- ③ バッチ情報で、ライブラリー・リストに SAWADLIB を指定して OK をクリックします。
 (JOB1 の例です。同様に JOB2-5 も登録してください)

- ④ 同様に JOB2 から JOB5 も登録しました。
 (下記の様になります)

スケジュール済みジョブのプロパティ

一般 単一システム システム・グループ

スケジュール システム・グループ

バッチ情報

送信情報

ジョブ記述: 参照 出力待ち行列: 参照

ライブラリー: ライブラリー:

ジョブ待ち行列: 参照 ユーザー: 参照

ライブラリー: 現行ライブラリー: 参照

ライブラリー・リスト:

拡張バッチ情報

アカウント・コード: 印刷キスト:

実行優先順位: 経路指定データ:

ジョブ優先順位: CL コマンドのログ:

出力優先順位: ジョブ待ち行列上での保留:

OK キャンセル

Advanced Job Scheduler - スケジュール済みジョブ

アクション

ジョブ名	T1	ステータス	T1	次の実行	T1	スケジュール	T1	グループ	T1	順序	T1	記述
フィルター		フィルター		フィルター		フィルター		フィルター		フィルター		フィルター
JOB1		実行準備完了		Jan 2, 2025 @ 15:00		毎週				00		実行ジョブ1
JOB2		実行準備完了		Jan 2, 2025 @ 15:00		毎週				00		実行ジョブ2
JOB3		実行準備完了		Jan 2, 2025 @ 15:00		毎週				00		実行ジョブ3
JOB4		実行準備完了		Jan 2, 2025 @ 15:00		毎週				00		実行ジョブ4
JOB5		実行準備完了		Jan 2, 2025 @ 15:00		毎週				00		実行ジョブ5

合計行数: 5

3. 拡張ジョブスケジューラーを使ってみよう（ジョブネット編）

(3) ジョブ依存関係の登録

①次に各ジョブの依存関係を登録します。
JOB1上で右クリックして、「ジョブ依存関係」を選択します。

Advanced Job Scheduler - スケジュール済みジョブ

アクション

ジョブ名	ステータス	次の実行
JOB1	実行済完了	Jan 2, 2025 @ 15:3
JOB2	完了	Jan 2, 2025 @ 15:3
JOB3	完了	Jan 2, 2025 @ 15:3
JOB4	完了	Jan 2, 2025 @ 15:3
JOB5	完了	Jan 2, 2025 @ 15:3

右クリックメニュー:

- 項目アクション
- ジョブ依存関係
- アクティブ依存関係
- リソース依存関係
- アクティビティ
- アクティビティ・ログ
- 既存のものを基にした新規作成
- 選択したジョブをグループに追加
- 許可
- HOLD
- リリース
- 次の実行をスキップ
- 即時実行
- スケジュール済みジョブのリセット
- 状況
- 名前変更
- 削除
- プロパティ

②「スケジュールされたジョブ」に表示されたJOB2からJOB4を、「後続」に追加します。
OKをクリックして保管します。

ジョブ依存関係

ジョブ名: JOB1
グループ名:
順序: 00

続行する前の要件

すべての依存関係を満たす
 少なくとも1つの依存関係を満たす

スケジュールされたジョブ:

JOB5

追加

先行:

ジョブ・グループ(シーケンス)	処理済み	必須	しきい値
レコードが見つかりません			
合計行数: 0			

後続:

ジョブ・グループ(シーケンス)	処理済み	必須	しきい値
JOB2	いいえ	はい	0000
JOB3	いいえ	はい	0000
JOB4	いいえ	はい	0000

OK キャンセル

3. 拡張ジョブスケジューラーを使ってみよう（ジョブネット編）

(3) ジョブ依存関係の登録

③次に、JOB5上で右クリックして、「ジョブ依存関係」を選択します。

Advanced Job Scheduler - スケジュール済みジョブ

≡ アクション

ジョブ名	ステータス	次の
JOB1	実行準備完了	Jan
JOB2	実行準備完了	Jan
JOB3	実行準備完了	Jan
JOB4	実行準備完了	Jan
JOB5	実行準備完了	Jan

項目アクション

- ジョブ依存関係
- アクティブ依存関係
- リソース依存関係
- アクティビティ
- アクティビティ・ログ
- 既存のものを基にした新規作成
- 選択したジョブをグループに追加
- 許可
- HOLD
- リリース

④スケジュールされたジョブに表示されたJOB2とJOB3を、「先行」に追加します。OKをクリックして保管します。

以上で「ジョブ依存関係」の登録は完了です。

ジョブ依存関係

ジョブ名: JOB5
グループ名:
順序: 00

続行する前の要件

すべての依存関係を満たす
 少なくとも1つの依存関係を満たす

スケジュールされたジョブ:

先行:	ジョブ・グループ(シーケンス)	処理済み	必須	しきい値
JOB1	> 追加			
JOB4	> 追加			
	JOB2	いいえ	はい	0000
	JOB3	いいえ	はい	0000

合計行数: 2

後続:

後続:	ジョブ・グループ(シーケンス)	処理済み	必須	しきい値
	> 追加			
	レコードが見つかりません			

合計行数: 0

OK キャンセル

解説：

- ここではJOB1とJOB5のみの「ジョブ依存関係」を登録しましたが、JOB2,JOB3,JOB4の「ジョブ依存関係」は、自動で登録されます。参考に、下記にJOB2からJOB4の依存関係を表示しておきます。

ジョブ依存関係

ジョブ名: JOB2
グループ名:
順序: 00

実行する前の条件
 すべての依存関係を満たす
 少なくとも1つの依存関係を満たす

スケジュールされたジョブ:

ジョブ	追加	先行	ジョブ・グループ (シーケンス)	処理済み	必須	しきい値
JOB3	>					
JOB4	>					
				はい	はい	0000
合計行数: 1						

後続:

ジョブ	追加	ジョブ・グループ (シーケンス)	処理済み	必須	しきい値
JOB5	>				
			はい	はい	0000
合計行数: 1					

OK キャンセル

ジョブ依存関係

ジョブ名: JOB3
グループ名:
順序: 00

実行する前の条件
 すべての依存関係を満たす
 少なくとも1つの依存関係を満たす

スケジュールされたジョブ:

ジョブ	追加	先行	ジョブ・グループ (シーケンス)	処理済み	必須	しきい値
JOB2	>					
JOB4	>					
				はい	はい	0000
合計行数: 1						

後続:

ジョブ	追加	ジョブ・グループ (シーケンス)	処理済み	必須	しきい値
JOB5	>				
			はい	はい	0000
合計行数: 1					

OK キャンセル

ジョブ依存関係

ジョブ名: JOB4
グループ名:
順序: 00

実行する前の条件
 すべての依存関係を満たす
 少なくとも1つの依存関係を満たす

スケジュールされたジョブ:

ジョブ	追加	先行	ジョブ・グループ (シーケンス)	処理済み	必須	しきい値
JOB2	>					
JOB3	>					
JOB5	>					
				はい	はい	0000
合計行数: 1						

後続:

ジョブ	追加	ジョブ・グループ (シーケンス)	処理済み	必須	しきい値
レコードが見つかりません					
合計行数: 0					

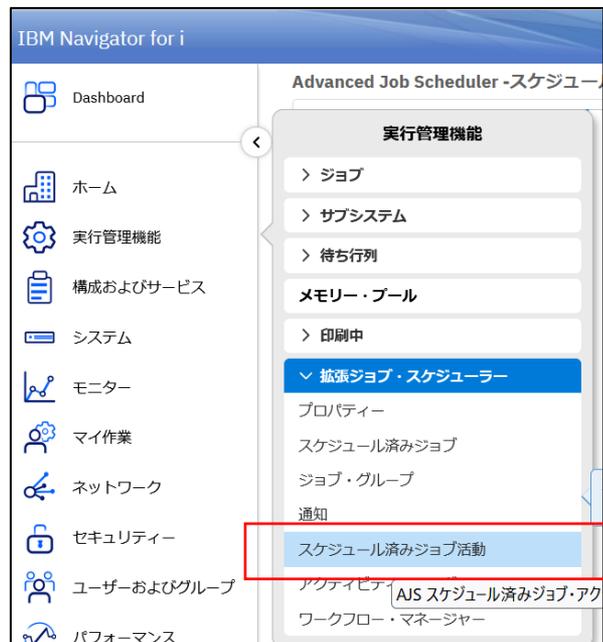
OK キャンセル

3. 拡張ジョブスケジューラーを使ってみよう（ジョブネット編）

(4) 完了確認

①ジョブの完了確認がは、
「スケジュール済みジョブ活動」を選択します。

②下記のように、JOB1からJOB5が
「成功」であれば、正常に終了です。



Advanced Job Scheduler - スケジュールされたジョブ・アクティビティ

スケジュール済みジョブ活動

プロパティ

ジョブ	完了状況	開始済み	グループ	順序	カレンダーのスケジューリング	記述
フィル	フィル	フィル	フィル	フィル	フィル	フィル
JOB5	成功	Jan 2, 2025 @ 15:00		00		
JOB4	成功	Jan 2, 2025 @ 15:00		00		
JOB3	成功	Jan 2, 2025 @ 15:00		00		
JOB2	成功	Jan 2, 2025 @ 15:00		00		
JOB1	成功	Jan 2, 2025 @ 15:00		00		

拡張ジョブ・スケジューラーのまとめ：

- ✓ 拡張ジョブ・スケジューラーは、無償で利用可能
- ✓ OS標準のジョブ・スケジューラー（WRKJOBSCDE）にはない
 - 業務ごとの分かり易いカレンダーの利用
 - アプリケーションごとのジョブネットの作成などの機能がある
- ✓ IBM Navigator for iのGUIで運用管理可能

ぜひご活用ください

4. 補足情報

1. Advanced Job Scheduler を使用したジョブのスケジュール
<https://www.ibm.com/docs/ja/i/7.5?topic=scheduler-scheduling-jobs-advanced-job>
2. Web 上の高度なジョブスケジューラ
<https://www.ibm.com/docs/ja/i/7.5?topic=scheduler-advanced-job-web>
3. ジョブ・スケジューラーの考慮事項
<https://www.ibm.com/docs/ja/i/7.4?topic=options-job-scheduler-considerations>
4. Advanced Job Scheduler (AJS) plugin to IBM Navigator for i
<https://www.ibm.com/support/pages/node/6845165>

IBM i 関連情報

IBM i ポータル・サイト

<https://ibm.biz/ibmijapan>

i Magazine (IBM i 専門誌。春夏秋冬の年4回発刊)

<https://www.imagazine.co.jp/IBMi/>

IBM i World 2024 オンデマンド・セミナー

<https://video.ibm.com/recorded/133917616>

IBM i World 2023 オンデマンド・セミナー

<https://ibm.biz/ibmiworld2023>

IBM i World 2022 オンデマンド・セミナー

<https://video.ibm.com/recorded/132423205>

月イチIBM Power情報セミナー「IBM Power Salon」

<https://ibm.biz/power-salon>

IBM i 関連セミナー・イベント

<https://ibm.biz/powerevents-j>

IBM i Club (日本のIBM i ユーザー様のコミュニティー)

<https://ibm.biz/ibmiclubjapan>

IBM i 研修サービス (i-ラーニング社提供)

<https://www.i-learning.jp/service/it/iseries.html>

IBM TechXchange Powerユーザーコミュニティー (日本)

<https://ibm.biz/ibm-power-user-community>

IBM i 情報サイト iWorld

<https://ibm.biz/iworldweb>

IBM i サポートロードマップ

<https://public.dhe.ibm.com/systems/support/planning/transfer/IBM.i.Support.Roadmap.pdf>

IBM i 7.5 技術資料

<https://www.ibm.com/docs/ja/i/7.5>

IBM Power ソフトウェアのダウンロードサイト (ESS)

<https://ibm.biz/powerdownload>

Fix Central (HW・SWのFix情報提供)

<https://www.ibm.com/support/fixcentral/>

IBM My Notifications (IBM IDの登録 [無償] が必要)

「IBM i」「9009-41G」などPTF情報の必要な製品を選択して登録できます。

<https://www.ibm.com/support/mynotifications>

IBM i 各バージョンのライフサイクル

<https://www.ibm.com/support/pages/release-life-cycle>

IBM i 以外のSWのライフサイクル (個別検索)

<https://www.ibm.com/support/pages/lifecycle/>

IBM Power Systems Virtual Server 情報

<https://ibm.biz/pvsjapan>



ワークショップ、セッション、および資料は、IBMによって準備され、IBM独自の見解を反映したものです。それらは情報提供の目的のみで提供されており、いかなる読者に対しても法律的またはその他の指導や助言を意図したものではありません。またそのような結果を生むものでもありません。本資料に含まれている情報については、完全性と正確性を期するよう努力しましたが、「現状のまま」提供され、明示または暗示にかかわらずいかなる保証も伴わないものとします。本資料またはその他の資料の使用によって、あるいはその他の関連によって、いかなる損害が生じた場合も、IBMは責任を負わないものとします。本資料に含まれている内容は、IBMまたはそのサプライヤーやライセンス交付者からいかなる保証または表明を引き出すことを意図したもので、IBMソフトウェアの使用を規定する適用ライセンス契約の条項を変更することを意図したものでなく、またそのような結果を生むものでもありません。

本資料でIBM製品、プログラム、またはサービスに言及していても、IBMが営業活動を行っているすべての国でそれらが使用可能であることを暗示するものではありません。本資料で言及している製品リリース日付や製品機能は、市場機会またはその他の要因に基づいてIBM独自の決定権をもっていつでも変更できるものとし、いかなる方法においても将来の製品または機能が使用可能になると確約することを意図したものではありません。本資料に含まれている内容は、読者が開始する活動によって特定の販売、売上高の向上、またはその他の結果が生じると述べる、または暗示することを意図したもので、またそのような結果を生むものでもありません。パフォーマンスは、管理された環境において標準的なIBMベンチマークを使用した測定と予測に基づいています。ユーザーが経験する実際のスループットやパフォーマンスは、ユーザーのジョブ・ストリームにおけるマルチプログラミングの量、入出力構成、ストレージ構成、および処理されるワークロードなどの考慮事項を含む、数多くの要因に応じて変化します。したがって、個々のユーザーがここで述べられているものと同様の結果を得られると確約するものではありません。

記述されているすべてのお客様事例は、それらのお客様がどのようにIBM製品を使用したか、またそれらのお客様が達成した結果の実例として示されたものです。実際の環境コストおよびパフォーマンス特性は、お客様ごとに異なる場合があります。

IBM、IBM ロゴ、ibm.com、Db2、Rational、Power、POWER8、POWER9、POWER10、AIXは、世界の多くの国で登録されたInternational Business Machines Corporationの商標です。

他の製品名およびサービス名等は、それぞれIBMまたは各社の商標である場合があります。

現時点での IBM の商標リストについては、www.ibm.com/legal/copytrade.shtml をご覧ください。

インテル、Intel、Intel ロゴ、Intel Inside、Intel Inside ロゴ、Centrino、Intel Centrino ロゴ、Celeron、Xeon、Intel SpeedStep、Itanium、およびPentium は Intel Corporation または子会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Linuxは、Linus Torvaldsの米国およびその他の国における登録商標です。

Microsoft、Windows、Windows NT および Windows ロゴは Microsoft Corporationの米国およびその他の国における商標です。

ITILはAXELOS Limitedの登録商標です。

UNIXはThe Open Groupの米国およびその他の国における登録商標です。

JavaおよびすべてのJava関連の商標およびロゴは Oracleやその関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。